

祝「ぷら〜な」  
50号!

そこで「編集協力員」に集まって  
くださった。いただきました。

平成4年に創刊した「ぷら〜な」が50号を迎えました。四半世紀にわたり皆さまに旬の情報をお届けしてきましたが、印象に残る記事はありましたでしょうか？  
今回は、これまでに編集協力員を経験された4人にお集まりいただき、お話を聞かせていただきました。

——これまでの取材で印象に残っていることは？

**今野** 平成23年に市が主催した配偶者暴力防止講演会の講師を務められたオペラ歌手の故・中島啓江さんへの取材です。

幼少期にいじめられていた頃の様子、「ありがとう」の一言が人生を変えたという講話が力強く、そして会場の隅々まで明るく伝わり、笑いが起こった時の様子が印象に残っています。会場に参列された方々には九州弁はなじまないのでは？と心

配したものの、いつの間にかすっかり打ち解けていました。彼女の人柄を知り虜になったのは、と喜んでいきます。出会いに感謝。良い思い出になりました。

**大滝** 私は山形北高等学校にディベートの取材に行ったことです（平成9年）。「女性の社会参画の諸問題」がテーマでしたが、3年生約50名の白熱したやり取りに驚きました。

「問題提起」「データ収集」「分析」「考察」そして「ディベート」

まで準備期間約1か月！先生方の指導と生徒の皆さんのやる気の凄さに脱帽でした。

——その頃、ディベートが流行りだったのではないのでしょうか、男女共同参画センター（フアール）の講座などでも取り上げられていましたね。

**須藤** 山形工業高等学校と山形中央高等学校に、家庭科の調理実習の取材で行きました（平成8年）。男子生徒の楽しそうな様子や料理の手つきの良さが印象に残っていますね。共働きの家の子どもの方が手際が良かったのは、ちょっとした発見でした。

「将来、共働きで奥さんの帰りが遅かったらどうする？」と男子生徒に問い掛けると、「別に。男が作っても女が作っても構わないと思う」「自分が作る。家事も一緒にやりたい」などの返事があり、想像以上に柔軟に楽しみなながら、家庭科を学んでいる

ると感じました。

**松本** 私は、映画字幕翻訳者の戸田奈津子さんへの取材です。市が主催した男女共同参画講演会（平成26年）に取材に行った時には、映画好きなので聴き惚れてしまい、後で文章をまとめるのに苦労した思い出があります。「世界には開拓するよつな『地』はもつないけれど、頭の中の『知』は未知の世界がたくさんあり、まだまだ開拓すべきものがあります。自分の夢に向かって『やる気を持ち続ける事』が大切です。やる気があれば誰だってできる。若い方には未知の世界にぜひ挑戦して欲しいものです」の戸田さんの言葉に、会場は拍手喝采で大盛況に終わりました。

——皆さんからみて、山形市の「男女共同参画」は進んでいますか？

**今野** 少しずつ、でも、確実に進んでいると思います。息子が当たり前のように家事や子どもの世話をしているところを見てつくづく思います。

**大滝** そうですね。娘の夫も子どもたちの面倒をよくみていま

すね。

**須藤** 若い人たちはうまくやっていると見えます。家庭内では男女共同参画が進んできたと思いますが、外に目を向けてみると、地域によってだいぶ差があるように感じます。町内会長などの役員を引き受ける女性が増えましたが、一方で、男性側では、それを受け入れられない

い人も多いと感じています。

**松本** 私が「ぷら〜な」に関わった頃から「ワーク・ライフ・バランス」という言葉が頻繁に聞かれるようになりました。今は「イクメン・イクボス」が浸透しつつあるように思います。佐藤市長も「イクメン・イクボス」と聞いていますが、世の中が変化していることを感じますね。

——これからの「ぷら〜な」に望むこと・期待することを教えてください。

**全員** 老若男女、障がいのあるなしにかかわらず、ユニバーサルデザインの社会の実現を目指して、「ぷら〜な」はその時々々のテーマを追求してほしいです。

皆さん、編集協力員の経験を活かして、現在も様々な方面で活躍しておられます。若々しく前向きに仕事をしている様子が眩しく感じられました。お忙しい中をお集まりいただき、ありがとうございました。

編集協力員 後藤 桂子



須藤 路子さん  
(H8~11年度協力員)

認定NPO法人山形創造NPO支援ネットワーク代表理事。県内のNPO活動を支援し、地域発展に貢献している。



大滝 和子さん  
(H8~12年度協力員)

女性コーラスグループ「タウベンコール」代表、ハンドベルグループ「山形ベルの会」に所属し、施設訪問や各種イベントでの公演などを行っている。



今野 久子さん  
(H19~24年度協力員)

介護施設に勤務。趣味はカメラで、編集協力員時代も撮影を担当。



松本千鶴子さん  
(H24~26年度協力員)

食品販売店に勤務。趣味は年間200本以上鑑賞する映画と献血。

\*ディベート：設定されたテーマについて、話し手が肯定派・否定派に分かれ、聞き手を説得する形で議論すること。